

基本方針	基本的方向	芦屋高校の実践目標	取組	質問事項	評価（5点満点） ※下段は昨年の結果			教員コメント （特に評価できる点／課題点）
					教員	生徒	保護者	
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	ア 知識・技能の定着 イ 思考力・判断力の鍛錬 ウ 表現力発信力の強化 エ 学びに向き合う姿勢の確立 オ キャリア教育の充実 カ 「学び方」を学ぶ	教材の精選と指導の改善	生徒にわかりやすい授業をおこなうための工夫をおこない、適切な内容と量の課題を与え、学力を伸ばすことができた。	3.9	3.6	3.7	【今年度の成果】 ・単位制の魅力を生かし、生徒の「好き」をかなえるために新たな選択科目の開発や選択群の見直しなど環境整備を進めている。 ・ユニークな学校設定科目に生徒たちは楽しく意欲的に取り組めた。 ・進路ガイダンスは、生徒が自分の進路について考えを深め、行動に移す契機となった。 ・基礎学力として英語・国語・数学に重点的に取り組み、授業日に実力試験を実施した。 【今後の課題】 ・「思考力・判断力」を鍛えることと、進路意識を高め「学びに向き合う姿勢」を確立するための支援をさらに充実させる必要がある。 ・観点別評価については教科単位では検証しているが、導入後3年が経過したこともあり、全体で検証する必要がある。 ・大学入試方法の多様化が進んでおり、小論文や面接などの指導については、年次、課を超えた協力体制が一層必要となる。
			個々のニーズに合わせた支援の実施	「シラバス」等を活用し、生徒が将来への見通しをもって科目選択ができるよう支援することができた。	3.7	3.6	3.6	
			補習、小論文講座、面接指導の充実	生徒が自分の進路について考えを深め、進路実現を果たせるよう適切な支援・指導ができた。	3.8	3.7	3.9	
			「好き」を叶えるユニークな選択科目	「単位制」の特色を活かし、生徒の能力・適性、進路希望等に応じた選択科目の設置や教育課程を組むことができた。	3.6	3.7	3.7	
			観点別評価の実践	授業のねらいや評価基準などを明確に示し、適切な評価をおこなうことができた。	3.7	3.9	3.8	
					3.8	3.8	3.6	
					3.9	4.1	3.9	
					3.5	4.1	3.8	
					3.9	3.5	3.5	
					3.1	3.5	3.5	
	「豊かな心」の育成	ア「自治 自由 創造」の実践	自治会組織の継承と発展	生徒が主体的に「自治」を行い、「自由」について考え「創造」できるよう、様々な教育活動の場面で生徒の支援にあたることができた。	3.7	4.1	4.2	【今年度の成果】 ・学校生活における活動において課題を発見し、主体的に解決する力については、執行部や指導委員中心に試行錯誤しながら、より良い学校づくりを進め、成果を上げている。 ・「芦屋の高校生としてどうあるべきか」をテーマとして芦屋市公立高校サミットを企画し、国際高校、芦屋国際中等教育学校とともに「芦屋市公立高校宣言」を表明した。 ・多様な選択を可能とする観点から、通学服の見直しを行った。 ・「総合的な探究の時間」は充実した授業内容が立案されている。生徒の取組についても積極的な態度が認められる。年次教員全員が関わる体制になり、探究活動の取組を全体で共有することができた。 ・様々な心の悩みを抱える生徒に対し、きめ細やかで丁寧に対応し支援することができた。 ・今年度は台湾姉妹校訪問の代替案として、少人数によるオンライン交流を実施した。 【今後の課題】 ・生徒が対話を通じて自ら策を講じることができるようなサポートをしていく必要がある。 ・「総合的な探究の時間」について、教員のファシリテーターとしての力の向上が一層求められる。 ・オンラインでの国際交流などの取組について、保護者への一層の周知が必要である。 【学校関係者評価】 ・記念祭や体育祭についての評価が高いことは素晴らしいことである。 ・地域の中学生や小学生との関わりや交流が、互いに育っていくために大変有益であると感じる。 ・地域に根ざして、社会に貢献していくことへの意識をどのように育てていくかが課題である。
			ルールやモラルを守る倫理観の育成	あいさつ・時間厳守・言葉遣い・服装など基本的な生活習慣を確立できるよう、適切な指導ができた。	3.2	3.9	4.1	
			生徒主体の記念祭（文化祭）定期戦 体育祭	記念祭や体育祭、定期戦などの行事において、自治会を中心とした生徒主体の実施に向けて、支援することができた。	3.1	3.8	4.0	
		イ 探究活動の研究	芦高タイム（総合的な探究の時間）	「AUSS探究ナビ」や「総合的な探究の時間」を通じて、生徒が自ら学び考える力を育み、学問・社会への関心を高める支援ができた。	3.9	4.6	4.4	
					4.0	4.6	4.4	
		ウ 心・技・体の醸成	部活動の活性化	生徒の自主的な活動を尊重した部活動の運営、実施ができた。	3.8	4.0	3.8	
					4.1	4.1	4.1	
		エ いじめ・不登校への対応	いじめ防止基本方針 いじめ対応チーム	生徒の心のケア、いじめの悩み等に対応できるよう教育相談体制を整えて支援にあたることができた。	3.8	4.1	4.0	
					4.0	4.3	4.0	
		オ 国際理解を深める教育	外国人生徒の受入れ	外国人特別枠選抜入学生に対して適切な学習支援を行い、進路実現に向けたサポートをすることができた。	4.0	4.2	3.9	
					4.0	3.7	3.3	
			海外語学研修の実施 台湾姉妹校との交流	海外語学研修の実施および台湾姉妹校との交流など、自国以外の人々と交流し視野を広げるための教育活動ができた。	4.0	3.7	3.4	
		「健やかな体」の育成			4.0	3.7	3.1	
			ア 健康安全教育 合理的配慮	個別の支援計画 指導計画の確立	3.9	4.0	3.8	
			イ 誰もが居心地のよい学校	健康的な生活環境の維持	4.0	4.3	4.2	
			ウ 命を尊重する姿勢	避難訓練、防災教育	3.4	3.5	3.9	
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	ア ICT機器の活用 イ 指導と評価の一体化	リモート授業の研究、推進	ICTを活用するなど、個別最適な学びや協働的な学習をめざした工夫をおこない、生徒の主体性や論理的思考力を育む授業ができた。	3.1	3.5	3.6	【今年度の成果】 ・ICTの活用について、プロジェクターを用いた授業やGoogleクラスルームでの課題や連絡事項の配信が日常的に行われるようになった。 ・保護者への必要な連絡事項について、ミマモルメを有効に活用することができている。 ・中学校での学習ボランティアに積極的に参加した。 ・宮川町自治会や近隣の保育園などと連携して防災訓練を実施できた。 ・阪神淡路大震災から30年の節目として、芦屋市主催の慰霊祭に芦屋市出身の生徒が参列し、高校生代表としてメッセージを発信した。 【今後の課題】 ・在校生保護者にも公開授業週間の案内をおこない、自由に参観してもらえるように進める。 ・ミマモルメの活用とともに、保護者と教員が直接関係を深める機会を増やすことも必要である。 ・図書館の利用を促進するイベントを考案すること、自習室としての機能を高めることを進め、学習センターとして活用していく。 【学校関係者評価】 ・今後も地域や同窓会、保護者との連携をさらに深め、特徴を活かした活動をしてほしい。
			ICT教育における資質 指導力の向上	情報発信に伴う責任など、情報モラルの向上は図られており、情報リテラシーについて十分に指導できている。	3.8	3.6	3.5	
			公開授業週間、研究授業の実施 授業改善の取組	公開授業や研究授業などを実施し、相互に授業見学をおこない教科横断的に連携するなど自己研鑽につとめることができた。	3.6	3.7	3.3	
		ウ 地域への情報発信	年次通信等の発行 ミマモルメの活用（メール配信）	学校HPや年次・各課からの通信、ミマモルメ等の利用により、生徒・保護者等に必要に応じた情報やメッセージが発信できた。	3.5	3.8	3.7	
					3.5	3.7	3.7	
		エ 家庭との協働	保護者との連携	年次集会や面談などを通じて、保護者と連携した教育活動をおこなうことができた。	3.5	3.7	2.9	
					3.2	3.7	2.8	
		オ 情報共有と組織的対応力	生徒主体のオープンハイスクール	多くの生徒が活躍するなど、充実したオープンハイスクールを実施できた。	4.1	4.2	4.1	
					4.0	4.0	3.8	
			あしかび会(同窓会)、PTA等との協働	記念祭や体育祭などの行事をはじめ、様々な教育活動においてPTAや同窓会と協力することができた。	3.8	3.9	3.8	
		カ 外部機関との連携	図書館の活用	図書室を読書センター・学習センターとして活用した授業実践や放課後利用の促進等の働きかけができた。	4.0	3.9	3.7	
					4.1	4.0	3.7	
					4.1	3.9	3.6	
					3.9	4.2	4.0	
					4.0	4.1	3.9	
					3.1	3.5	3.2	
					3.1	3.6	3.1	
					4.0	3.7	3.6	
					3.9	3.7	3.8	
	「確かな学力」の育成	ア 知識・技能の定着 イ 思考力・判断力の鍛錬 ウ 表現力発信力の強化 エ 学びに向き合う姿勢の確立 オ キャリア教育の充実 カ 「学び方」を学ぶ	教材の精選と指導の改善	生徒にわかりやすい授業をおこなうための工夫をおこない、適切な内容と量の課題を与え、学力を伸ばすことができた。	3.8	3.6	3.5	【今年度の成果】 ・単位制の魅力を生かし、生徒の「好き」をかなえるために新たな選択科目の開発や選択群の見直しなど環境整備を進めている。 ・ユニークな学校設定科目に生徒たちは楽しく意欲的に取り組めた。 ・進路ガイダンスは、生徒が自分の進路について考えを深め、行動に移す契機となった。 ・基礎学力として英語・国語・数学に重点的に取り組み、授業日に実力試験を実施した。 【今後の課題】 ・「思考力・判断力」を鍛えることと、進路意識を高め「学びに向き合う姿勢」を確立するための支援をさらに充実させる必要がある。 ・観点別評価については教科単位では検証しているが、導入後3年が経過したこともあり、全体で検証する必要がある。 ・大学入試方法の多様化が進んでおり、小論文や面接などの指導については、年次、課を超えた協力体制が一層必要となる。
			個々のニーズに合わせた支援の実施	「シラバス」等を活用し、生徒が将来への見通しをもって科目選択ができるよう支援することができた。	3.7	3.6	3.6	
			補習、小論文講座、面接指導の充実	生徒が自分の進路について考えを深め、進路実現を果たせるよう適切な支援・指導ができた。	3.8	3.7	3.9	
			「好き」を叶えるユニークな選択科目	「単位制」の特色を活かし、生徒の能力・適性、進路希望等に応じた選択科目の設置や教育課程を組むことができた。	3.6	3.7	3.7	
			観点別評価の実践	授業のねらいや評価基準などを明確に示し、適切な評価をおこなうことができた。	3.7	3.9	3.8	
					3.8	3.8	3.6	